

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	±0	±0	±0	令和8年度の目標	0	+1	+1	+2	-1.2	-5	-9.4	-10
令和7年度の結果	-4	-2	-6	令和7年度の結果	-0.2	+1.8	-2.2	-5.8	-10.4	-10.9	-3.9	-0.9
令和6年度の結果	-10	-9	-19	令和6年度の結果	-8.6	-10.7	-13.1	-14.3	-3.1	-1.9	-8.6	-5.1
令和5年度の結果	-17	-21	-38	令和5年度の結果								

年度 内容	令和7年度	令和8年度	
	成果と課題	目標	目標達成に向けた取組
学校全体	<p>【成果】 ○全体的に、江戸川区学力調査のA・B層の割合が増えた。算数科では、基礎的な力が付き、正しく計算をする力が伸びた。</p> <p>【課題】 ○江戸川区学力調査や都算研の結果から、算数科の図形領域の得点が低かった。国語科では、漢字の書きや文章の読解に課題がみられた。</p>	<p>○既習の漢字を使って文章を書くことができるようにする。 ○言葉の意味を正しく理解し、書いたり読んだりできるようにする。 ○学年相応の計算する力を身に付け、習熟を目指す。</p>	<p>○第4学年からよむYOMUワークシートを確実に実施して、要旨を捉える練習を繰り返し行っていく。 ○朝学習の時間を有効活用して、漢字の学習や復習を行い習熟を図る。 ○タブレット端末のデジタル教材を効果的に活用する。 ○学習した漢字を作文で使ったり、算数科で学習した表やグラフなどを他教科で活用するなど教科横断的な指導を行う。</p>
第1学年	<p>【成果】 ○都算研のテストの結果から、9割の児童が足し算、引き算などの計算ができるようになった。計算問題には喜んで取り組む姿がみられる。位に気を付けて数の並び方を考えることができた。 ○ひらがな、カタカナ、漢字を覚え、興味をもって本を読むことができる。</p> <p>【課題】 ○文章問題を読んで、立式したり、図を書いたりすることに課題がある。 ○拗音が含まれる言葉の書き方に課題がある。また、音読で意味が伝わるように読むことが難しい。</p>	<p>○文章問題を読み、問題の意味を理解して正しく立式できる。 ○本を読み、語彙を増やす。</p>	<p>○文章問題を音読して確かめたり、分かったことを友達に話したりして交流する機会を増やす。 ○朝読書・朝学習の時間を活用して、読書を進める。おもしろかったところなどの感想を友達と伝え合う活動を行う。</p>
第2学年	<p>【成果】 ○都算研のテストの結果から、乗法九九の正当率が約8割となっていた。算数が苦手な児童も、九九を意図的に覚える姿が見られた。</p> <p>【課題】 ○都算研のテストの結果から、「乗数、被乗数の関係を考えて立式すること」の正答率が低い。国語科では「漢字」、「文章を読んで理解する」ことが難しい。</p>	<p>○文章を読んで正しく理解することができる。 ○問題文を読んで、乗数、被乗数の関係を考えて立式することができる。</p>	<p>○朝学習を活用して、漢字、計算を繰り返し練習し、定着を図る。 ○物語や説明文を読んで、感想や意見を考え、友達と伝え合う活動を積極的に取り入れる。 ○算数科では、問題文の中で聞かれていることと分かっていることを整理し、自分で説明する活動を取り入れる。ドリルパークを活用し、いろんな問題に慣れる。</p>
第3学年	<p>【成果】 ○東京BDでは、4月と12月の結果から、10.8%の上昇率が見られた。算数が苦手な児童が粘り強く学習に取り組む姿が見られるようになった。</p> <p>【課題】 ○江戸川区学力調査から、国語科では「漢字」「言葉の特徴や使い方」、算数科では「加法・減法」「時刻と時間」の領域で得点率が低かった。</p>	<p>○正しい漢字や言葉を選んで文章を書くことができる。 ○算数科では、加法・減法の答えを確実に出せる。</p>	<p>○朝学習を活用して、漢字の復習を行い、定着を図る。 ○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施し、必要に応じて既習の計算の仕方を振り返りながら確実に計算できるように指導する。発展コースでは多くの発展問題に取り組んでいき、正答率を上げることを意識させる。また、算数科の授業や朝学習でドリルパークを活用し、演習の時間を確保する。</p>
第4学年	<p>【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科と算数科で前年度よりA・B層が増えた。また、算数科はD層が半分減り、底上げを図ることができた。</p> <p>【課題】 ○江戸川区学力調査から、国語科では「漢字」「文学的な文章」、算数科では「平面図形」「円・球」の領域で得点率が低かった。図形の領域が全体的に得点率が低い。</p>	<p>○考えていることや感想など、理由や根拠を必ず入れて文章にし、話したり書いたりできる。 ○算数科では、図形領域について具体物を使って問題を解決することができる。</p>	<p>○朝学習を活用して、説明的文章を読む力を育てていく。週に1回以上の朝読書で、文学的文章などを読む時間を確保する。 ○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施し、基礎コースでは具体物を必ず使った指導を行い、発展コースでは多くの発展問題に取り組んでいく。また、ドリルパークを積極的に活用して、演習の時間を必ず確保する。</p>
第5学年	<p>【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科と算数科で前年度よりA・B層が増えた。また、国語科では、D層が10%減り、A層が7.5%から14.8%と2倍近くに増えた。</p> <p>【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、全体的に得点率が低く、国語科では「言葉の特徴や使い方」「書くこと」「漢字の書き」、算数科では「分数の計算」「小数・小数の計算」「平面・立体図形」が特に低かった。</p>	<p>○漢字を使って文章を書くこと、言葉の意味を調べる・使用することができる。 ○分数や小数などの計算ができる。図形を具体物を使って問題解決を行う。</p>	<p>○宿題や学習の時間で漢字定着のために繰り返し、練習を行う。 ○辞書やタブレットを使って調べるようにする。 ○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施し、必要に応じて既習の計算の仕方を振り返りながら確実に計算できるように指導する。繰り返し計算練習を行い、定着させるようにする。また、ドリルパーク等を利用して学習を行っていく。</p>
第6学年	<p>【成果】 ○江戸川区学力調査から、国語、算数どちら共目標値を超えることができた。</p> <p>【課題】 ○江戸川区学力調査から、国語科では「漢字の書き」「説明的な文章の読解」、算数科では「図形全般」の領域で得点率が著しく低かった。</p>	<p>○漢字については、該当学年の内容だけでなく、既習学年の内容の確実な定着を目指す。 ○説明的文章については、文章の要旨を正しく抑え、構成や工夫などを理解したうえで、書き方の習得まで目指す。 ○図形では、形や性質、積公式の理解、習熟を目指す。</p>	<p>○これまでの家庭学習の内容や取り組み方法を見直し、より成果を上げられるものを開発、実施する。 ○漢字に関わる学習に取り組める時間を、授業の中に設ける。 ○授業中で学んだ、文章の構成や工夫などを生かした作文活動により、定着を確実なものとする。 ○図形の学習では、図形問題に対する見方や考え方を明確にする。また、デジタル教材を活用し、空間的な理解を助ける。</p>